

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Nodal basin recurrence following lymph node dissection for melanoma: implications for adjuvant radiotherapy	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ14-5	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（IV）	
	Pubmed ID	10661355	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Radiat Oncol Biol Phys	
	雑誌 ID		
	巻	46	
	号	2	
	ページ	467-74	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2000 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Lee RJ	Roswell Park 癌センター
	その他著者 1	Gibbs JF	同上
	その他著者 2	Proulx GM	同上
	その他著者 3	Kollmorgen DR	同上
	その他著者 4	Jia C	同上
	その他著者 5	Kraybill WG	同上
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	十分なリンパ節郭清術を施行した悪性黒色腫症例の再発形式を検討する		
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究		
	セッティング	Roswell Park 癌センター		
	対象者	338 例のリンパ節郭清術を受けた症例		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (14)		
	介入 (要因曝露)	郭清術：全例 郭清部位 (頸部：56 例、腋窩：160 例、鼠径部：122 例) 目的 (治療目的：75%、予防的：25%) 化学療法：44 例 術後放射線治療：なし		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
		1	領域リンパ節制御率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
		2	領域リンパ節制御に与える因子	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
		3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
		4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
		5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	10 年の領域リンパ節再発：30% 単変量解析 部位別：頸部(43%)、腋窩(28%)、鼠径部(23%) 目的別：治療的郭清(36%)、予防的(16%) 被膜外進展：あり(63%)、なし(23%) 転移リンパ節個数：1-3 個(25%)、4-10(46%)、>10(63%) 最大径：<3 cm(25%)、3-6 cm(42%)、>6 cm(80%) 多変量解析：郭清部位、被膜外進展のみが独立した因子 10 年生存率：30% 転移リンパ節数、郭清目的 (予防；治療) が独立した予後因子			

	結論	頸部原発例、リンパ節転移 4 個以上、臨床的リンパ節転移陽性例、3 cm を越えるリンパ節例では十分な郭清術を施行しても再発率が高く、術後照射を考慮すべき。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間直人
	レビューワーコメント	全例放射線治療は施行されておらず、術後放射線治療の意義は検討できない。しかし、手術単独ではリンパ節再発の可能性の高い症例を選択する上で注目に値する論文である。 レベル I V